

「子どもの権利 兵庫」「子どもの権利 神戸」共催 学習講演会

日本の子どもたちは今

～ 統一報告書は国連子どもの権利委員会に何を訴えたのか ～

講師 世取山洋介さん(「子どもの権利条約市民・NGO 報告書をつくる会」事務局長)

日時 2018年6月24日(日) 1時開場 1時30分開会

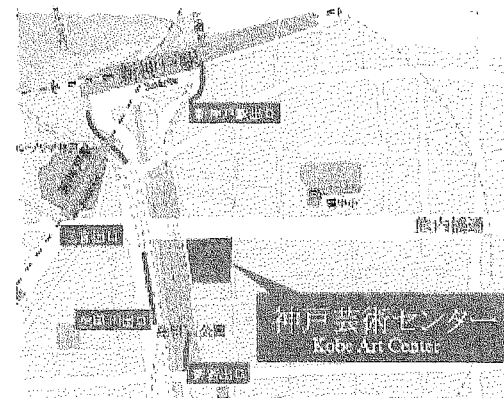
会場 神戸芸術センター (新神戸駅南3分)6F

葺合文化センター 中会議室 2

神戸市中央区熊内橋通 7-1-13

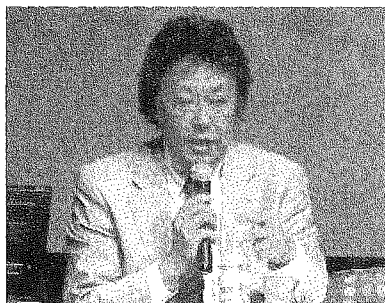
Tel : 078-241-7477

資料代 1000 円



統一報告書とは

日本における「子どもの権利条約」の実現状況を明らかにし、今後の課題を示す、4・5回国連子どもの権利委員会（CRC）による日本審査が現在行われており、審査の判断は、日本政府が出す報告書と、私たち「子どもの権利 兵庫」「子どもの権利 神戸」が所属する「子どもの権利条約・市民 NGO 報告書をつくる会」などの NGO が出す報告書によって行われます。政府報告書は日本の子どもたちの現状を真に捉えたものとは言えず、問題点が多いと私たちは考えています。私たちは、様々な立場から寄せられた、兵庫県内における近年の子どもたちの状況をまとめ、「報告書をつくる会」に送りました。「報告書をつくる会」は日本の各地から出された基礎報告書をもとに、日本の子どもたちの状況を赤裸々に示す統一報告書を作成し、CRC に提出しました。タイトルは「日本における子ども期の貧困化－新自由主義と新国家主義の下で－」です。



世取山洋介氏（新潟大学教育学部准教授、「報告書をつくる会」の事務局長）

統一報告書作成の責任者で、今年2月に行われたCRCの予備審査にジュネーブに招請され、プレゼンテーションをし、質問に答えてきました。公表された日本政府への質問リストには、統一報告書の内容そのままが質問に挙げられていたとか。その時の様子も語ってもらい、統一報告書の理解を深め、子どもの権利が豊かに保障される国にするための方策を探っていきましょう。

国連子どもの権利委員会（Committee on the Rights of the Child）は条約によって設置された委員会で、18人の独立した専門家で構成される。定期的に関われて条約による義務の実施について締約国が行った進捗状況を審査し、これらの義務をいかに果たすかについて政府に勧告する。また、条約の規定についての解釈を一般的コメントの形で発表する。 — 国連広報センターホームページより

